

2020年12月24日

日本とアンドラの両外務大臣は、2020年に日本とアンドラの外交関係樹立25周年を迎えるに当たり、歓迎の意を表した。

両国が、1995年の外交関係樹立から25年にわたり、自由、民主主義、人権、法の支配といった普遍的価値、そして、両国の人的・文化的・経済的な紐帯に基づき、様々な分野において関係を発展させてきたことを踏まえ、両大臣は、二国間関係を一層拡大し、強化する決意を表明した。

両大臣は、こうした素晴らしい二国間関係によって、日本とアンドラとの協力は、観光や高等教育、文化等の分野において特別な水準に達していることを確認した。この強固な紐帯は、2019年10月、東京での、茂木敏充・マリア・ウバック・フォン両外務大臣による史上初の外相会談においても強調された。

両大臣は、相互理解を促進するため、文化や観光を通じた人的交流の重要性を確認した。この点、両大臣は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、スポーツを通じた人的交流が深化することに期待を表明した。

両大臣は、国際法に基づく自由で開かれた海洋秩序が、国際社会の安定と繁栄の重要な柱であることを改めて確認した。この関連で、両大臣は、自由で開かれたインド太平洋の実現の重要性を共有した。

両大臣は、各種の国際機関選挙や日本主導の決議案に関する協力に見られるとおり、両国間の連携が、国際場裡においても強化されていることを歓迎した。両大臣は、こうした協力は、世界の平和と安定、気候変動といった国際的な課題に対応するための主要な手段であり、多国間主義への両国のコミットメントに基づいたものであることを確認した。茂木大臣は、本年10月のアンドラのIMFへの加盟を歓迎するとともに、両大臣は、今後、国際場裡において一層緊密に連携していくことを確認した。

両大臣は、国際的な義務に違反し、緊張を高めるような行動に反対するとともに、核・ミサイル開発を含む安全保障上の問題に関する国連安全保障理事会決議の完全な履行の重要性を確認した。両大臣は、拉致問題を含む国際社会が懸念を有する人道上の問題に取り組む重要性を強調した。

この25周年に当たり、現行の素晴らしい二国間関係の強化に向けて前進し、両国国民を結びつける共通の価値観を促進させるため、共に働き続ける固い決意を表明する。

日本国外務大臣
茂木敏充

アンドラ公国外務大臣
マリア・ウバック・フォン